

かけはし

第32号 平成9年12月12日発行
発行 千代田区教育委員会



秋の婦恋自然体験交流教室（昌平小）

主 な 記 事	☆〔座談会〕大切な幼児期 “三つ児の魂、百まで”
	☆「白鳥教室」の活動
	☆学校行事アルバム（9～11月）
	☆地域に支えられる子供たち（その2）

やわらかい秋の日差しのもと、夢中
になってジャガイモを掘りました。

みんなの額には、うっすらと汗が光
っていました。

*教育広報「かけはし」は資源保護の
ため再生紙を使用しています。

座談会

大切な幼児期 “三つ児の魂、百まで”

神戸の小学生連続殺傷事件をきっかけとし、この八月、文部大臣から「心の教育については、幼児期からの対応が大切である」との諮問があり、現在、中央教育審議会で審議中です。そこで、今号では、いま教育の場や家庭に求められている幼児教育について、幼稚園教育に長く携わり、実績を上げている方々に、率直なお話を伺ってみました。

幼児教育は人づくりの基礎

藤井 日々の保育の中で、お感じになっていることについて、お話ししていただけますか。

角田 神戸の事件だけでなく、多発した小動物虐待などの報道を聞いてみますと、そういうことをした子は、幼い頃に社会的ルールを学ぶことがなく、家族とのかわりが薄かったようです。それで私は、幼児期に親や幼稚園の先生とのかわりの中で、豊かな感情経験や生活感覚を育むことが改めて大切なのだと思います。

佐瀬 私は、神戸の事件にしても、非行いじめ、不登校など、思春期のそういった現象は、乳幼児期の心の反映であり、「三つ児の魂、百まで」これこそ真理だと思っています。生まれてから成長していく過程の中で、その幼児が発達課題をきちんと乗り越えていけば、人間としての基礎がしっかりとできあがってきます。その際、幼児の「心の教育」は「心」で行うという原点に戻り、母子関係など基礎

的な信頼関係を確実に持ちながら、行っていくことが重要だと思います。

羽豆 私は幼稚園の子供と小学校の子供の両方を見ていますが、社会性、他人とのかわりを大切にする子供を育てるためには、学校・幼稚園と家庭と地域が、子育ての原点を考えていく必要があると思います。それから、「心の教育」というのは、ただ「心」だけを教育すればよいということではなく、心と頭と体が一体となった、望ましい子育ての姿を考えていくことが、一つのステップであると感じました。

生命へのいたわりを育てる

藤井 「生きる喜びや感情を育てることを、幼児期にしておかなくてはならない」ということが大切だと思いますが、それでは具体的にどうすればよいかについてお話しいただけますか。

角田 美しいものやきれいなものを感じられる心、優しさや思いやりの心を幼児期に育てておくことが大切です。

羽豆 大人の世界で通用しないことは、

子供の世界でも通用しないということを、まず理解しておかなければならないと思います。逆に、その両方に通用する最大公約数は「生きるもの」を尊重する心です。その「生命尊重」の心を幼児期に育てなければならぬ。例えば、幼稚園で小鳥やウサギを飼っている、ただ当番だから世話をするというだけではなく、毎日ウサギの目を見るとき、世話を通して大切にしようということを分らせることです。このことが、ひいては人に対するいたわり、生命尊重につながっていくのではないのでしょうか。

藤井 人や物を大切にすることについて幼稚園で具体的に実践していることを、家庭や地域の方々にもきちんと伝えることも大切ですね。

羽豆 そうですね。ただ、日本の社会ではまだ、知的なものを大事にする意識が強いですが、そこが変わらないと。そういう意味では、神戸の事件がものを考えるきっかけになったと思います。

角田 これはちよつと視点を変えようと、国際理解ともかわるんですが、「違っていて当たり前なんだ」ということを、



角田 園長

供同士のつながりを大切にして、「集団の教育である」ということをしっかりと踏まえる必要があると思います。

羽豆 その集団も、「みんなで渡れば怖くない」という集団ではなくて、他人の痛みをわたり、喜びを共にするという集団でなければなりません。

佐瀬 先ほどの、集団云々という前に、まず自分を持つということ、プライドを持つということ。それによって、集団が活性化すると思います。その中で、子供のよさを、行事や遊びなどを通して保護者や地域の方々が実感できるようになればと思います。

角田 子供たちのよさに気づくような働きかけをすることが、幼稚園の役目であると思います。それによって、お母さん方は、幼稚園に対してというよりも、自分に対して安心していきます。そういう機会をつくって、知らせるという幼稚園の役割は大きいと思います。

佐瀬 子供たちが「幼稚園が好き、先生が好き、皆で遊ぶことが大好き」となれば、幼稚園で学ぶことはきつと多くなると思います。夢と希望を持って、前向きに生きていけるでしょう。

羽豆 その「好き」という感情をどう培うかということが、すばらしい教育につながると思います。「好き」ということが、物事に対する積極性につながりますし。

佐瀬 そのために、私たち保育者は、「これだから困る」というようなマイナスイメージを持たないことです。

子供たちが自身を感じるようになることが大事だと思います。例えば近隣の外国人学校との交流の中で、生活習慣の違いなどを知り、お互いを認め合う、学び合うことが、一人一人を大切にすることだと思います。

佐瀬 未就園児のお母さん方は、子育てについていろいろな悩みを持っています。そういう方々が集まって、子育てや子供の成長と一緒に喜び、助け合える幼稚園でありたいものです。これからは、幼稚園だけでなく、家庭も地域も三位一体で育ち合うという幼児教育が理想であると思います。

藤井 そういった子育ての喜びが分かち合えるような教育は、幼児期だからこそできますね。その意味では、幼稚園は、親が声をかけやすい身近な存在ではないかと思っています。

佐瀬 幼稚園には、マイナスをプラスに転じていくという大きな役割があると思います。人とのかわりの中で、子供のよさを発見してあげるという役割です。一緒に考えてもらえる、一緒に悲しんでもらえるという関係が、保護者と幼稚園の間にできる。今はそういう時代だと思います。

羽豆 その際大事なのは、幼稚園と小学校の連携を深めるということだと思っています。親の悩みも、「うちの子がこのまま小学校へ行っても大丈夫なんだろうか」というのが本音です。幼稚園と小学校がうまく連携していればそのような不安は生じないと思います。

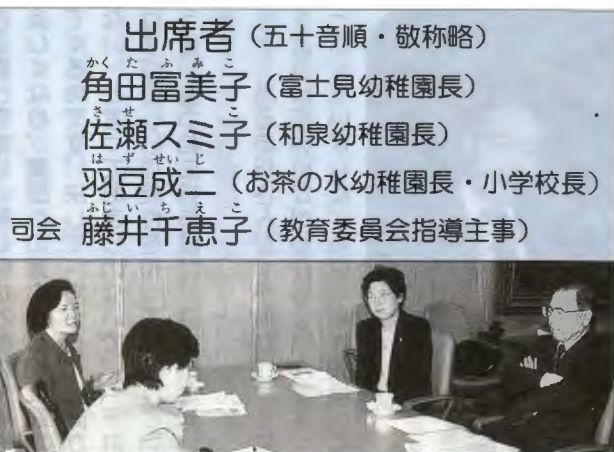


しつけを通して親子関係深める

羽豆 家庭の役割というのは、やはり愛情に基づきながらも、しつけや基本的な生活習慣を教える場であると思います。そういう家庭の機能と、幼稚園の機能をはっきりさせて、お互いに語っていただくことが大切だと思います。家庭は安らぎの場、子供の心の居場所です。親子の語り合いや、心の基礎となるぬくもり、安らぎをしっかり味わわせてほしいと思います。

佐瀬 しつけを通して親子関係を深めるという時代に向かっていっていると思います。

角田 「今、僕たちが困っている」ということを、つらい思いをしている」ということを、そばにいて大人、親、先生にはっきりと伝える。そういう子供を家庭でも幼稚園でもしっかりと育てていきたいものです。



出席者 (五十音順・敬称略)
角田富美子 (富士見幼稚園長)
佐瀬スミ子 (和泉幼稚園長)
羽豆成二 (お茶の水幼稚園長・小学校長)
司会 藤井千恵子 (教育委員会指導主事)

幼稚園は初めての集団生活の場

佐瀬 運動会の玉入れで負けた四歳児の子が、「くやしー」と言っただけです。そういう悔しさや様々な感情を出す体験をさせることは大切ですね。

藤井 最近、少子化で兄弟のいる子が少なくなり、兄弟ゲンガを通して学んできたことが、家庭では学べなくなっていると思います。

羽豆 幼稚園生活というのは、そういう少子家庭で育ってきた子供が、初めて集団生活を体験する場であると言えると思います。その点を保育者側もきちんと意



佐瀬 園長

佐瀬 家庭だけでなく、保育者が親の立場で、どうやってそのしつけをすればよいか、その具体的な方法を提示したり方向づけたりすることで、家庭の機能はさらに高まっていくと思います。

角田 例えば、自分の身のまわりのことがスムーズにできるようになるには慣れが必要ですが、そのためには、「してあげる」「ことからさせる」「そして「する」という段階を経ることが大切です。「してあげる」段階では、喜んで、愛情を持って接してあげる。次に、「させる」段階では、見守りながら、やり方を丁寧に教えてあげる。そして「する」ようになったら、その動機や過程や結果をほめてあげる。そうすることで、自分できき喜びを感じ、新しいことへの挑戦も楽しくなり、集団への適応が可能になってくるのです。決して「言いつことを聞かない」と言っておきながら、「子供は素晴らしい可能性を持っている」という思いをつねに持ち続けてほしいと思います。

佐瀬 あるお母さんが「子供が作った物をどうしていいかわからないんです」と話していました。私は「具体的に、こ



羽豆 園長

適応指導教室

「白鳥教室」の活動

本区の不登校児童・生徒のための適応指導教室「白鳥教室」が、地道な活動を続けています。開設以来一年八か月が経過しましたが、その活動の様子を教育相談部の柴屋晴夫主任に紹介してもらいました。

白鳥教室とは

いろいろな理由で、どうしても学校に行くことができない子供や、学校を休みがちな子供が増えていきます。

どうしよう・・・
学校に行きたいけど行けない。
どうしよう・・・
また、学校を休んでしまった。

白鳥教室は、このような子供たちのために、昨年度から、区教育研究所の教育相談部内に開設されました。

昨年、十名の中学生が通級しました。そして、四名が高校に進学などしました。今年も、現在までに、新たな四名の通級生を迎え、十名の中学生が通ってきています。

ここがこんなに上手になったね、と状態が前と違うことをほめてあげたらいいかわかるか」と答えました。どの子供にも伸びようとする力があります。それを信じて、愛情を持って励まし、認めてあげることです。

羽豆 同感です。子供と接するときには「温かく触れ、励ます」というかわり方を大切にしていきたいものです。例えば、「よくお手伝いができたね」とか「自転車乗りが上手になったね」「もう少し頑張つてね」というようなほめ言葉や励ましの言葉かけです。こうした温かい言葉かけが、子供の心の成長にとって欠かせないと思います。

教えるべきこと きちんと教える

藤井 この際特に強調しておきたいことがあります。もしもお願いします。

角田 新社会人になってまず最初に「おはようございます」「ありがとうございます」ということから教育が始まる、という光景を見かけました。大人になってモ礼儀を身に付けていない人が多いというところでしょうか。気持ちがあればいいという人もいます。気持ちは、持っているだけではいけないと思いますが、表現されてこそ伝わるものです。「ありがとう」の言葉一つでも、幼児への親や教師の言葉や表情は、そのまま子供の人格形成に染み込んでいくものなのです。やさしさは持っているだけでは足りませんが、教えるべきことをきちんと教えることが大切

白鳥教室での活動

この夏休み、初めて教室から外に出て劇場で映画鑑賞会を行いました。

白鳥教室で「もののけ姫」を見た行った。という話かあまり知らなかったのが期待が高まっていた。話は人間の愚かさを描いたようなものだった。私は、ああいうのは好きな物語でよかった。映像もスピード感があってとてもきれいだった。
(通級生の感想から)

白鳥教室での、日々の活動内容は、主として下記の三つです。

- 1 心配事や悩みなどに対する相談
教育相談部の機能を生かして、個別のカウンセリングを実施しています。
- 2 個々の子供に応じた学習
一人ひとりの期待に応え、つまずきに対応することを重視しています。
- 3 集団(グループ)での活動
鑑賞、創作、表現活動のほか、軽いスポーツやゲームなども行っています。

通級生にとって白鳥教室は

今年三月、白鳥教室で中学校生活を終えた通級生が、現在は、高校生活を元氣



ですね。

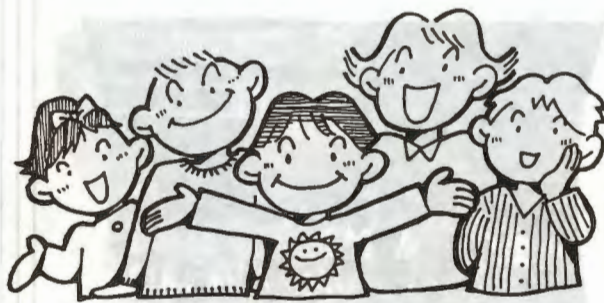
羽豆 先日、子供の動きを見ていたらさっきまで口争いをしていたA児とB児が「さっきはごめんね」とあやまり合っているのです。見ていてとてもほほえましい場面でした。「ごめんね」とか「ありがとう」という言葉がごく自然に言える子供に育ってほしいと願っています。心をあたため合える「だっだ」一つの言葉を大切にしていきたいものです。

佐瀬 商業主義が盛んな近年、何でも物本位になっていきます。それに引き込まれぬよう、時には年中行事を見直し、しっかりとした味わいを持つ家族の団らんの間をつくるのが大切です。連休などとかく遠出して子供を楽しませる家庭も多くなっているようですが、雑踏の中を遠い所へ行くよりも、近くの公園で家族そろって遊んだり、子供と一緒に料理をしたりなど、手作りのお祝いをするのも楽しいものです。そんな休日のあり方も

に送っているそうです。

ここ(白鳥教室)に通う前までは学校に行けないことに罪悪感があって、自分が嫌だった。
ここに通うようになってからは、外出もできるようになったし、嬉しい。健康になったように思う。
人の意見も聞けるし、自分のことを人に話せるようになった。自分に自信が持てるようになった。
(卒業生の感想から)

今、白鳥教室の通級生たちは、人と人とのかわりを見つめ、集団生活への適応力を高めつつ、学校生活への順応や自立を目指しているところです。



神田司町二丁目複合施設の 愛称が「神田さくら館」に決まりました

千代田小学校・千代田幼稚園・教育研究所・まちかど図書館からなる複合施設の建設工事が、来年二月竣工の予定で進んでいます。

このたび、施設の管理運営等を検討している神田司町二丁目複合施設運営委員会において、施設の愛称を広く区民の皆さんに募集したところ、百八十点もの愛称をお寄せいただきました。

その中から運営委員会での選定を経て、施設の愛称が「神田さくら館」に決まりました。また、まちかど図書館の名称は「神田まちかど図書館」となりました。神田地域の教育施設として、また生涯学習の場として、多くの皆さんに親しまれる施設にしたいと考えています。



外観を現し始めた「神田さくら館」

学校行事アルバム (9~11月)



▲9/28 運動会 (お茶の水小)



▲10/7 小・中学校陸上競技大会
(写真は一橋中の生徒)

平成9年度 小・中学校陸上競技大会
新記録

- 小6女子50Mハードル
後藤 彩子 (和泉小)
9秒09
- 小5男子400Mリレー 和泉小チーム
59秒75
- 中3女子800M 松村 絢 (練成中)
2分31秒98



▲11/14~15 音楽会 (九段小)



▲11/21 桜田門からスタートしたマラソン大会
(今川中)



▲11/14~15 文化祭 6年「オズの魔法使い」
(富士見小)



▲10/16 1年生の遠足 (番町小)



▲11/13 連合文化祭での英語劇 (九段中)

今回は、少年野球チームの一つである「お茶の水スリーアローズ」の早川隆介会長にお話を伺いました。

「第一には、体力をつけること。二番目は、保護者の中にも野球好きの方はたくさんいますから、野球がうまくなるようにしてほしいという希望はありますね。さらに、学校では上級生が下級生の面倒をみるという上下のつながりを大切にしていると思います。野球チームの場合は、技術によって下級生がレギュラーになる可能性があります。それがスポーツのよさであり、また厳しさでもあると思います。それを子供に経験させてもいいと考えている方もいらっしゃるの事実です。そして何よりも「親と子のふれあい」が大きいですね。」

地域に支えられる子供たち(その2)

—「三本の矢」から—「お茶の水スリーアローズ」

子供たちに望むことはありませんか。「一人でも多くの子供たちに参加してほしいということ。確かに、いろいろなことも多いですが、努力することによって得られるものは、何物にも代え難いですね。決して勝利至上主義ではありませんが、勝つことによって子供たちに喜びを与えたい、というのが私たちのチームの監督の考え方です。何もしないで勝つのではなく、努力することによって勝つということ。もちろん、野球を楽しんでやってほしいというのは言うまでもありません。野球という集団生活を通して、規律を守ることの大切さなど、いろいろなことを学びとってほしい。そして、中学へ行っても野球に限らずスポーツができる体力を、小学生のうちからつけてほしいと思います。」

最後に、これからの抱負をお願いします。「これからチームを続けられるよう努力して、子供たちに野球の楽しさを教え、野球をしていてよかったという、よい思い出をつくってあげられればと思います。」



生活用具のうつりかわり (その一)

今号から「千代田区の指定文化財」にかえて、四番町歴史民俗資料館の収蔵の資料の中から、今では珍しくなってしまう生活用具などをシリーズでご紹介していきます。なお、指定文化財につきましては、資料館発行の『資料館だより』等をご覧くださいと思います。

いよいよ師走に入り、寒さも一段と身に染みるようになってきました。そこで今回は当館収蔵の資料のうち暖房器具についてご紹介いたします。

現在わたしたちは石油ストーブ、ガスストーブ、電気ストーブ、エアコンなどの暖房器具により簡単に部屋を暖かくできます。しかし、このような器具が作られる前は、写真のような「火鉢」が長い

間暖房器具の主役でした。(地方では囲炉裏なども使われました)

「火鉢」の中には灰を入れ、真ん中にはやかんなどを乗せる五徳がおかれ、木炭をはさむ火箸や灰ならしなども立ててありました。この「火鉢」の燃料は木炭で、最初にその木炭に火をつけた後、火種を絶やさないように灰をかけて火力を調節したり随分手間のかかるものでした。「火鉢」は瀬戸物の他、木材(桐、杉、樟、紫檀、黒檀)でできたものや、金属製のものなどがありました。

下の写真は「長火鉢」といって板を組み合わせて作られていて、小物を入れる引き出しなどもついています。灰を入れるところには銅板が張られ、お湯を沸かすために銅壺もありました。

この「火鉢」は、暖房器具であると同時に、お湯を沸かしたり、お酒の燗をしたり、餅を焼いたり、一つで何役もこなしました。

やがて新しい暖房器具が出始めると、この「火鉢」も、その役目を終えて次第に姿を消していききました。



随想

きょういく

子供たちの活字離れ、図書離れが教育上の大きな問題となつてから久しいものがあります。その間、この問題が改善されたかという点、むしろこの傾向は

一層顕著になつてきたように思えます。情報化の進展や映像文化の進展は子供の心を完全に与えて、もはやじっくり時間をかけて読書を楽しんでいる子供は極めて限られてきたように思われます。

人格形成期における読書の大切さは論を待ちません。豊かな人間形成や主体的な学習態度の育成に読書活動の果たす役割は非常に大きいものがあります。

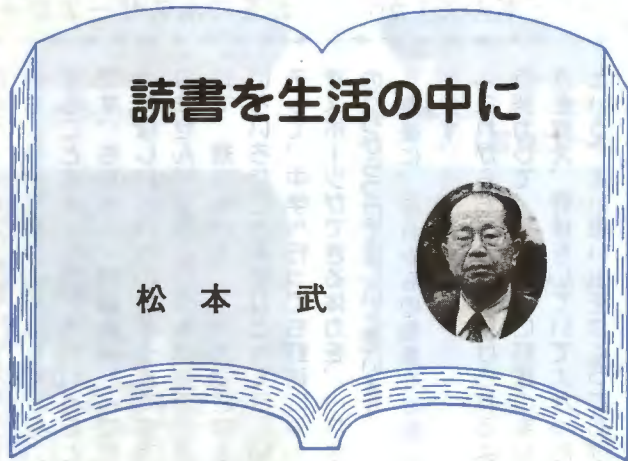
私は長い間、子供の読書指導や学校図書館教育に携わってきましたので、その経験を通して読書をお供に定着させる方策について若干述べてみたいと思います。

朝の読書で子供が変わる

学校ならば授業前、家庭の場合は子供と相談して適当な時間を定めて、約十分間の読書時間を設けることです。読む本は子供の自由に任せ、親や教師は一切口出しをしないけません。ただひたすら読むだけで、これを毎日続けるのです。読書の習慣が身につきますし、豊かな心と人間関係や言語能力が自然と育つていきます。

地域の特性を生かして、調べ読みの習慣を身につける
本を資料にして様々なことを調べてい

く過程で、新しい知識が身についていく楽しさが味わえます。この学習の取りかかりとして、自分の住む地域から素材を見つけ調べていくことです。たとえば、千代田区に関わりのある作者の読み物として「南総里見八犬伝」「坊ちゃん」「ピルマの竖琴」「破戒」等、伝記では「滝廉太郎」「寺田虎彦」「東郷元帥」「堀



読書を生活の中に

武本 松



保己」等で、さらに歴史的な事物まで広げていくと限り無く素材は増えていきます。

また、千代田区には多くの雑誌や図書の草分け的な出版社や世界的に有名な本屋街、大手取次店等が集中しています。このような所も発展的に取り上げ、調べ読みすることは楽しいことです。

読書へのいざない

映画、テレビ、ビデオ等には読書と結びつくものが多く、とくに幼児を絵本へと誘う優れた作品も数多く見られます。映像媒体はうまく活用すると読書と共存ができるのです。

また、学校の先生や親による読書の楽しさについてのお話は、子供への影響が極めて大きいことが実証されています。

さらに、作者について話し合ったり、本の購入に子供を参加させたり、外国の絵本について語り合い、原作のよさを味わわせるなど、読書を通じて親子のコミュニケーションを図ることは、子供を読書好きにする大きなきっかけにもなります。

大人はついマンガを敬遠しがちですが、映像慣れた子供たちにとってマンガは極めて身近で分かりやすい図書ということになります。マンガを通して感動したり、豊富な知識を身に付けている子供もいます。

何より親の読書をする姿は、子供をさりげなく読書に誘う重要な条件です。家庭全体が読書に親しむ雰囲気をつくることとがとても大切なことだと思います。

まつもと たけし

元千代田区立富士見小学校長

・幼稚園長

東京都小学校図書館研究会

OB会代表

きょういく 随想

編集後記

今の子供は、物質的な豊かさや便利さの中で生活していますが、一方で学校や塾それに自宅での勉強と時間を取られ、ゆとりのない生活を送っています。この忙しさの中で、子供たちは兄弟や友達との遊び、自然体験、社会体験、生活体験などがどうしても不足しがちです。時間的なゆとりを持たせることはとても大切なことですが、もつと大切なのは心のゆとりを持つことです。生命を大切に、他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になつて考え共感することのできる温かい心など子供だけでなく私たち大人にも大切なことだと思います。

最近、文部省は「心の教育」の必要性を強く打ち出しました。今回行われた座談会は、この教育の大きな課題にそつて、まず幼児教育に視点を当てて取り上げてみました。

ところで、中学校生徒の英国ウエストミンスター市への派遣は、十月三十日から十四日間の日程で行われ、十一月十二日に全員無事に帰国しました。この貴重な体験を学校全体に広げ、国際理解や親善に生かして欲しいと思います。

「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。

教育広報「かけはし」第三十二号

平成9年12月12日発行

編集発行／千代田区教育委員会

〒102 千代田区九段南1-6-11

☎(3264)0151 内3114